

学位プログラム科目群(社会学関連科目)

社会学関連科目(専門科目)

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	担当教員	授業概要	備考
OBLA500	社会学インターンシップ	3	2.0	1・2	通年	応談	社会学学位プログラム担当教員	社会学に関連する機関でインターンシップを行い実践力を養う。履修希望学生は、申請書に、受入組織、受入組織所在地、受入組織責任者、受入組織担当者、受入期間、就業日数と時間(35時間以上であることが必須)、インターンシップ中の連絡先、補助等を明記し、学生教育研究災害障害保険(インターンシップコース)に加入した上で申請書を提出する。履修が認められインターンシップに参加した後、インターンシップの内容の概要、具体的成果、インターンシップ指導担当者の所見等からなる報告書を提出し、担当教員が評価を行う。	02CN053と同一。 対面(オンライン併用型) 担当教員と受け入れ機関の指示に従うこと
OBLA501	社会学ファシリテーター育成プログラムI	3	2.0	1・2	通年	応談	社会学学位プログラム担当教員	社会学に関するプロジェクトに積極的に介入し、プロジェクトの進行に寄与できる能力を実践を通して養う。具体的には、「プロジェクト実施予定一覧」で提示されるプロジェクトのいずれかに参画し、課題に取り組む。	02CN051と同一。 対面(オンライン併用型) それぞれのプロジェクトの担当教員の指示に従うこと
OBLA502	社会学ファシリテーター育成プログラムII	3	2.0	1・2	通年	応談	社会学学位プログラム担当教員	社会学に関するプロジェクトにおいて協働のプロセスを管理、展開できる総合的能力を実践を通して養う。具体的には、「プロジェクト実施予定一覧」で提示されるプロジェクトの中で、課題に取り組む	02CN052と同一。 対面(オンライン併用型) それぞれのプロジェクトの担当教員の指示に従うこと
OBLA503	社会学ファシリテーター育成プログラムIII	3	1.0	1-3	通年	応談	社会学学位プログラム担当教員	社会学に関するプロジェクトにおいて、総合的にプロセスを展開できる能力を実践を通して養う。「社会学ファシリテーター育成プログラム」は「社会学ファシリテーター育成プログラム」より実施期間が短いプロジェクトを対象としており、具体的には、「プロジェクト実施予定一覧」で提示されるプロジェクトのいずれかに参画し、主体的に課題に取り組むことで、総合的にプロセスを展開できる能力を養う。	02CN057と同一。 対面(オンライン併用型) それぞれのプロジェクトの担当教員の指示に従うこと
OBLA504	社会学ファシリテーター育成プログラムIV	3	1.0	1-3	通年	応談	社会学学位プログラム担当教員	社会学に関するプロジェクトにおいて、総合的にプロセスを展開できる能力を実践を通して養う。「社会学ファシリテーター育成プログラム」は「社会学ファシリテーター育成プログラム」より実施期間が短いプロジェクトを対象としており、具体的には、「プロジェクト実施予定一覧」で提示されるプロジェクトの中で、主体的に課題に取り組むことで、総合的にプロセスを展開できる能力を養う。	02CN058と同一。 対面(オンライン併用型) それぞれのプロジェクトの担当教員の指示に従うこと
OBLA505	社会学博士特別演習I	2	2.0	1	通年	応談	社会学学位プログラム担当教員	指導教員と2名の副指導教員の同席のもと、博士論文に関する計画発表を行い、論文執筆までの見直しを得る。	対面(オンライン併用型)
OBLA506	社会学博士特別演習II	2	2.0	1	通年	応談	社会学学位プログラム担当教員	学会等において自ら口頭発表を行うことで、研究者として必要なプレゼンテーション能力・コミュニケーション能力を身に付ける。	対面(オンライン併用型)
OBLA507	社会学博士特別演習III	2	2.0	2	通年	応談	社会学学位プログラム担当教員	指導教員と2名の副指導教員の同席のもと、博士論文に関する中間発表を行い、論文執筆までの見直しを得ることで評価を受ける。	対面(オンライン併用型)
OBLA508	社会学博士特別演習IV	2	2.0	2	通年	応談	社会学学位プログラム担当教員	掲載が認められる査読付き論文を自ら執筆し、研究者として必要な論文執筆能力を身に付ける。	対面(オンライン併用型)
OBLA509	社会学博士特別研究I	2	2.0	3	通年	応談	社会学学位プログラム担当教員	審査委員の同席のもと、博士論文における成果の見直しについて発表を行い、論文提出に関して予備審査を受ける。	対面(オンライン併用型)
OBLA510	社会学博士特別研究II	2	2.0	3	通年	応談	社会学学位プログラム担当教員	審査委員の同席のもと、執筆した博士論文に関して最終発表を行い、本論文の審査を受ける。	対面(オンライン併用型)